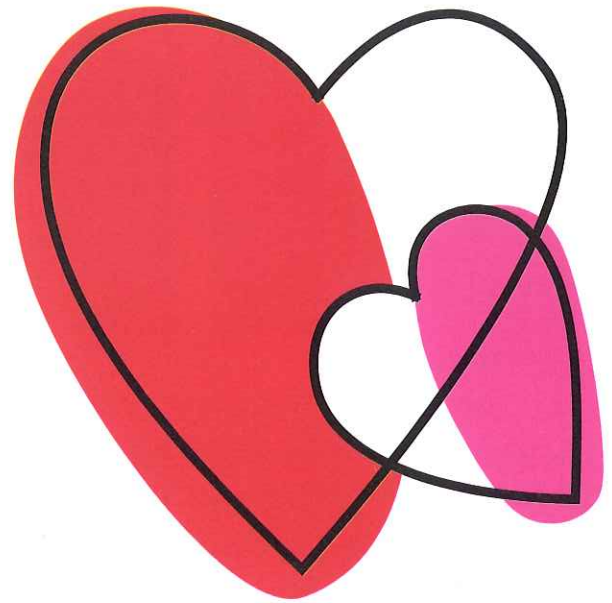




*Pediatric
Cardiology
&
Cardiac Surgery*

小児循環器

■ごあいさつ■

私たち手稲溪仁会病院の小児循環器および心臓血管外科部門は、北海道の心臓病を持つ全ての子供とその家族が安心して治療を受け元気に退院していく、そんな施設を目指しています。

■診療方針■

小児循環器医と心臓血管外科医の密接な連携のもと、術前・術中・術後を通して常に共同で診療にあたっております。さらに一般小児科医、麻酔科医、他科専門医をはじめ、看護師、診療放射線技士、臨床工学士、理学療法士、薬剤師、管理栄養士等が積極的に治療に参加することで、あらゆる角度からの集学的治療を実践しております。このように日夜を問わず維持されるチーム医療体制の充実や、ドクターヘリ基地病院として最短時間での救命救急体制も整ったことで、道内で治療困難といわれた病状の厳しい患児も当院で治療を受けて元気に退院してくれています。

■特徴■

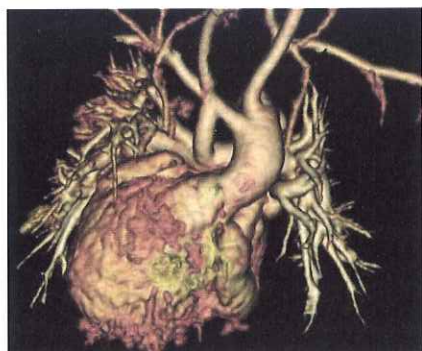
新生児症例、複雑心奇形症例、合併疾患を持つ症例など、いわゆる難易度の高い症例が多いのが当院の特徴ですが、絶えざる手術手技や周術期管理の進歩によって治療成績は着実に向上し、これまで北海道内では出来ないとされてきた外科的手術も可能となってきました。一方、単純心奇形に対しては手術の傷を従来の半分以下で行う低侵襲手術も積極的に行うことで、多くの患者さんご家族に満足していただいております。

■対象疾患■

主に小児心臓血管疾患、成人先天性心疾患が対象です。心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症等の単純心奇形は低侵襲手術も選択肢とした治療を行っています。複雑心奇形はファロー四徴症、心内膜床欠損症、大動脈弓離断症、大血管転位症、肺静脈還流異常症、単心室症(機能的なものを含む)等、様々ですが解剖学的に可能な場合は新生児期であっても一期根治を行っています。段階的手術が必要な疾患は綿密な治療計画を立て、その達成に向け最善を尽くします。疾患によっては小児循環器医と心臓血管外科医の密接な連携を活かして外科的手術とカテーテル治療を組み合わせる治療を行う場合もあります。

■医療連携■

患者さんは全道各地から御紹介いただいております。全身状態は勿論のこと、心臓に関しては心電図、ホルター心電図、レントゲン写真、心臓超音波(エコー)、核医学、CT、MRI、心臓カテーテルといった中から必要十分な検査を組み合わせを行い最善の治療法を決定します。体重が3kgの患児にも使用可能な経食道エコーや気管支鏡も導入されたことで、治療成績の向上に大きく役立っています。また呼吸状態の悪い患者さんに対する無侵襲陽圧呼吸(NIPPV)等の最新の呼吸補助を積極的に行っております。手術後は患者さんの住み慣れた環境に安心してお帰りいただける様、御紹介元の施設とも密接に連絡を取り、24時間体制で迅速な対応をしています。



平成 19 年 5 月には手術室が増築、全 12 室となり小児心臓手術専用の部屋が確保されました。最新設備の中で小児心臓血管手術は 24 時間・365 日施行可能となりました。心臓手術の際に用いる人工心肺は低容量の専用回路を使用することで小児心臓手術でも無輸血手術を行うことが可能となってきました。



平成 19 年から新たな集中治療室が稼動し、病床数が 12 床に増えました。重篤な心不全に対応すべく低容量の心肺補助装置を常備し、従来救命困難とされた症例も治療可能となりました。

手術前と手術後安定期には病棟（小児センター）で治療を行います。手術を受ける患儿に手術の説明をし、子供が周りから感じる不安を取り除くことに役立てています。



肺高血圧症を伴う手術や発作に直ちに対応可能なように一酸化窒素（NO）ガスを常備しており、手術室でも集中治療室でも安全な呼吸循環管理が可能です。また、肺血流を制御するための窒素（N₂）ガスも常備しており、ハイレベルの呼吸循環管理が可能となりました。最新の医療機器・設備、高度な医療技術により病状の厳しい複雑心奇形などの治療に大きな成果をあげています。

